よろしく ご諒承の程を。
このあと4号で「落選の所感」を 3人の人に
書いて貰って 載せる予定です。

JRPみえばん 百万石
39
1980 4
伊勢市古市町
東　洋介
百万石編集部

遠きより 身近かきものをと 小先生　がんばりたるも 及ばざるなり。
（かげろう のうた 筑後やながわ）

夢へTELありたる由なれど　酒のはなしに つきたる如し。
（知己先生より 3月15日 ヒル）

三重かっぱ 四国かっぱに おとらざる 奥に秘めたる もの現れよ。
（おおむた かっぱに 申す）

（消印　3月20日のハガキ）　城台巌

「視点5」以後. 仲間のたより

前略　わざわざ おハガキ ありがとうございました。おかげで モヤモヤしていたものが、フッ切れたようです。　あの最後の例会の際、私はなんとしても出席できなかったので、川北さんに 作品を 持っていって貰ったのですが、竹内さん なんとか ものにしようと 一生懸命苦労されたと思うと、もったいなく　嬉しく思いました。

でもかなり大きく、四角に カットされたと見せられて、ヤッパリ だめなんだなあ とは思っていたのですが、そこは あさましいところ、それでも あわよくば とも思ったりしていたのでした。

負けおしみかも 判りませんが、今回出品できるようになったのは、皆さんの はげましもあったり、いろんな要素が 私に働いてくれて、本当によかったと思っているのです。

先日は お留守で お合いできなくて残念でした。でも さしあげたあられの件ですが、私には 昨年のとの違いは 判りません。無論 昨年と 条件は同じです。あのあられ煎りで ガラガラとやられたんでしょうね。　またあられ論議でもしましょうか。草々

3月31日　　八木 到

おはがきをいつも、有難うございます。　相変らずの筆不精お許し下さい。

奨励賞ほんとうにおめでとうございます。　東さんは もちろん 三重支部にとっても本当に良かったと思います。

きょうの お便りで 自分の落選を知り、正直言って 複雑な 心境です。　でも「来年に」と 2回も書いて いただいた 東さんの 心配りには　非常に嬉しく 感謝しています。

応募してから いろいろな事を考えました。

自分の写真には まだまだ 欲があるような気がしてきました。どんな事でも主役と脇役があるように、力もないのに ひとり主役を演じようとしていたのかも知れません。　対人関係においても 社会的にも、JRPにおいても 三流の主役より一流の脇役になるように 努力するべきだと思ってきました。　こんな考え方をするようになって来たことが 自分では スコシ進歩したと思いますが どうですか？

視点に参加して 2回目ですが 結果はともあれ、自分自身の一年の節を つけるためにも　これからも 参加していきたいと思います。

話は変りますが 胃の方は どうにか静かになりましたが……（中畠編集人）

益さん（本会員入会決定）ですが とても熱心に やってくれます。幸い 家が近いこともありますが ふたりで寄ると必ず午前様、先日は ふたりで一緒に撮影にも行きました。近い将来 必ず 三重支部の中心人物になってくれると思います。　こんど お会いするのを たのしみに　さようなら

4月 1日　　平本克三

（註）以上2通のたよりは 百万石に投編されたものでなく、洋さん 仙人が貰ったのを転載させて頂きました。事後承諾をいただくつもりです。　両方ともすばらしい内容で、自分ひとり 私するには 惜しいと思ったからです。

でんわでもしもし入選の「弁」 4月2日

（仁さん しばらく。入選おめでとう。）
《ありがとう、実は きょう竹内さんに電話して入選知ったとこですワ》
（エッ本当 そう悪かった、僕知ってた。悪かった。ところで入選の気分は？）
《そうですなあ。　ゆっくり、あわてず、休まず、テーマを持ちながら撮っていくと入選の関門は突破できるものですなァ。報われるものですよ。　清水さんも じっくりやっていましたから よかったですねエ。
新人の人も ボチボチとやって貰いましたら……あわてると 休まんなりません。亀サンで行って貰いましょう。そしたら だんだん花開くもんですよ。　舟さんも じっくりと始めましたから、あの人は伸びますねエ。エッ？ 舟さん入選でした？　それはよかった。》
〈サスガ仁サン。タテ板ニ水デシタ。シカモ言ッタコトノ内容ガ スバラシイ。〉

〈ココデ柳生サンカラ電話カカル〉
《やあ東さん しばらくです。たった今、谷川さんから教えて貰ったところです。》
（アレ、ご存知なかったんですか？ 隆の字め 電話しなかった？）
《イエ、私ちょっと旅行してましたから》
（ところで今のご心境は？）
《やっぱり うれしいですねえ…》
〈シミジミト ウレシソウナ様子ガ伝ワッテクル〉
《実はですねエ、今、奈良から帰ったところなのです。　奈良には あしびが 咲いていましてねエ……撮ってきましたよ……実は もう入選をあきらめて、あしびを見ていたのです。捲土重来のつもりでした……。》　※

奥さんの声、はい西井です。アッ東さんですか いつもお世話になって… ちょっと待って下さいね。
〈トテモ ヤサシイ ヒビキ、チクショウ 西井サン奴〉
《アッ、もしもし、ハイ ありがとう、おかけさまで、東さんも おめでとうございます。アッそうですか、13人も？　よかったですね。たくさん入れてよかったですね。　私は入るとは思ってなかったのに……》
（ところで 百万石のインタビュウです、入選でなにか イッペツ言って下さい）
《ありゃありゃ　急に言われても……。越前へ行ってきた甲斐ありました。去年の12月に行ってきまして、竹内さんにもういへぺん行けと言われまして 2月の末頃、例会にぎりぎりでした。2度めを行ってきたわけです。行った甲斐ありました。……　あんまり、あのう……、新しい人が入る方がいいですね。　私らは もう いいのです。…竹の写真の人ソラ小林さんはどうだったんですか？
そうですかあ。　佐伯でしたかあ。もう ちょっとで惜しいですねエ でもよかったですねエ。エッ小森君入ったって？
よかったですねエ。　舟さんとこも、ご主人が先に入選でよかったですねエ……》

※《奈良は今 あしびの盛りですよ。実は娘を送りがてらでして その帰りでした。》
（舟さんが、柳生さんの 入選を 深く喜んでいましたよ。　舟さんたら、ほんとに柳生さんと スミさんのこと 心配していました。）
《そうですか。　うれしいことですなあ…》
（そしたら自分が入選で 腰が抜けたとか 抜けんだとか、アハハハ。）

贊京子さんが 写真リアリズム45号 10冊を 全部定価で売り捌いて、7500円もうかって、その儲けをそっくり事務局へ寄附すると言ってくれた話に、皆 感心したり感謝したり。　みんなそれを聞いて　すがすがしい気持。（因みに隆の字事務局は"志"は有難く頂だいして お返しした由です。）

ところが今度は 上には上の話が出た。　宮間、東の両名である。　本部品切れの弱味につけこんで　なんと 1冊3,000円で　12冊も売り　大儲けをした。　こっちは ちっとも スガスガしくない、嘘でもいいから 事務局へ 差し出したら、どや。
おまけに 運賃送料まで 本部に 持たせたとか。　チクショウ。